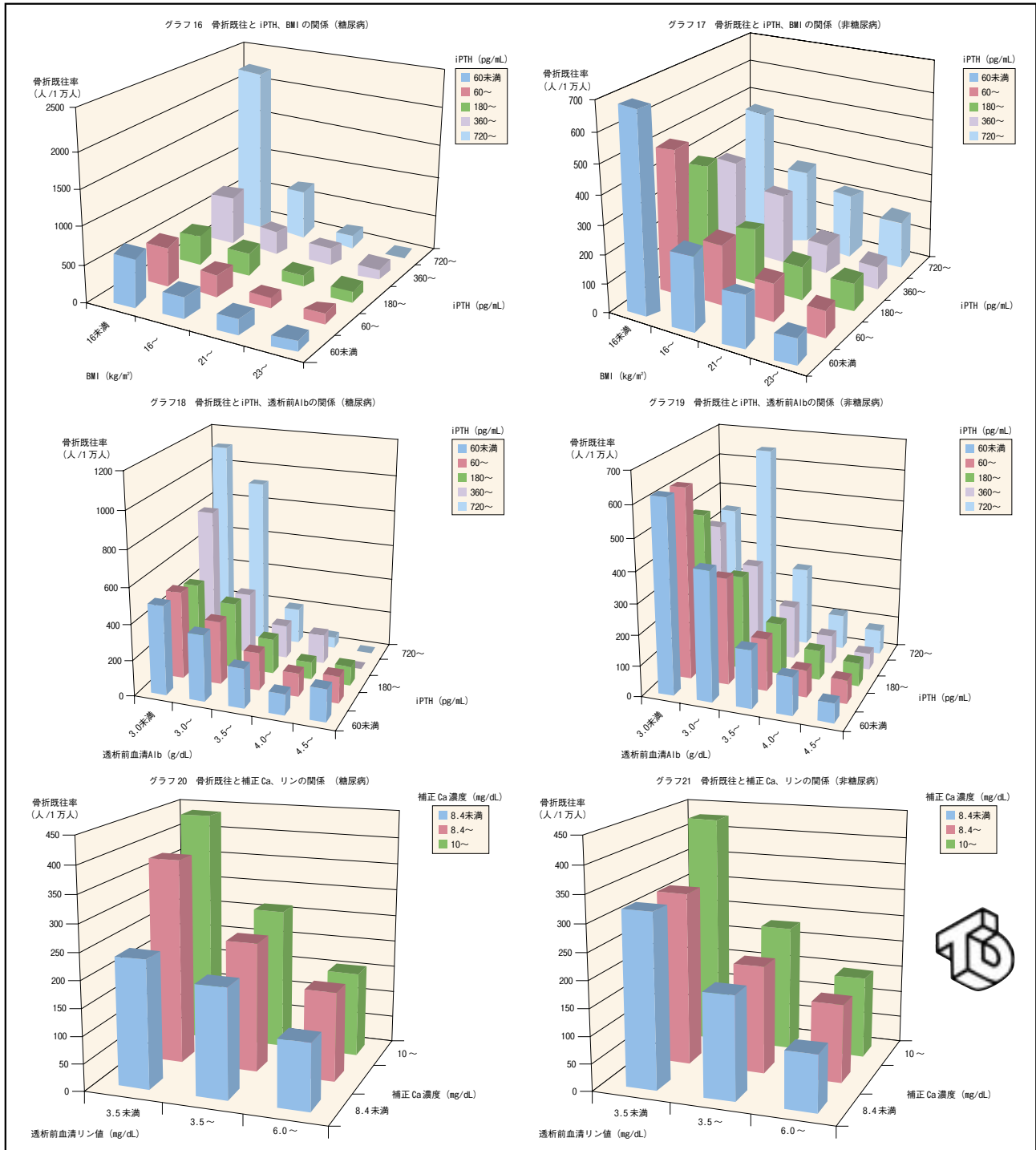


4) 大腿骨頸部骨折既往の現状

(4) 頸部骨折と血清補正Ca、リン、iPTH（糖尿病有無別）（図表41）



患者調査による集計

解説

糖尿病の有無別に骨折既往率について解析をした。糖尿病では、BMIが低い患者ではPTHが高いと骨折既往率が高く、BMIが大きくなるとPTHと骨折既往率の関係は希薄になった。一方非糖尿病においては、低いBMIの患者ではPTHと骨折既往率の関係はU字の関係であり、低すぎるPTHも高すぎるPTHも高い骨折既往と関連があった。この傾向もBMIが高くなるにつれ消失し、BMIの高い患者ではPTHの高低と骨折既往の関連は乏しい結果となった。(グラフ16、17)。ただし、この比較において糖尿病と非糖尿病で骨折既往率のスケールが違うことに留意されたい。グラフ18、19に見るように、透析前Alb、iPTHと骨折既往に関しても同様な傾向が見られた。また糖尿病の有無にかかわらず、透析前血清リン値が低いほど、補正Ca濃度が高いほど骨折既往率が高かった(グラフ20、21)。